

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年7月31日

事業所名 日本社会事業大学附属子ども学園

		チェック項目	はい (人)	いいえ (人)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用者定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	・曜日によってクラス分けをして有効に活用している。	
	②	職員の配置数は適切である	12	0	・今年度からはST職員が一人増え、年中児に対しても月一回の支援が行えている。	・園庭の手入れ等行き届いていない所もシルバーセンタースタッフと共に環境整備に努めている。 ・指導時間帯のフリー職員増員希望については経営上は厳しいことだが、両室長がフリーでグループ巡回したり、多職種(看護師、相談支援専門員、栄養士、事務員等)による目くばせや見守り等さらに関与工夫を進めたい。 ・年度初めの職員確保については、先手公募をしぎりぎり間に合う対応となった。職員が長年続けられる職場環境を整えていくよう努めていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	0	・子どもの特性に応じて各部屋で構造化の具合を調節している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12	0	・毎日の清掃、コロナウイルス対応等を考慮し良い環境を維持している。 ・コロナ感染症対策が加わりアルコール消毒やこまめな換気を行い、清潔に保たれている。	・遊具などの消毒を徹底していく。遊具点検は日々の見守り時、また清掃時に見つけ報告し、早期改善して安全に努めていく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	無回答1	・職員全員参画している。 ・年に2度(前期後期)業務評価を実施している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	・保護者から意見を聞き、業務改善を行っている。 ・各行事で保護者にアンケート調査を実施し、次年度以降の行事に活かすことができている。 ・第三者評価や、保護者アンケート、連絡帳等で保護者要望をうかがい改善につなげている。	・三年に一度の第三者評価受審と共に、昨年度からの児童発達支援ガイドラインによる事業所自己評価、保護者等の事業所評価を実施・集計し、検討後に公表して、確実に業務改善につなげていく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	・昨年度、保護者による業務評価を行い、業務の改善につなげている。また、大学HPや施設の掲示板に掲載することで周知をしている。	・今年度はコロナ禍の影響で、特に前期会報の発行が滞ってしまった。後期は地域感染状況を注視しつつ、事業見通しを安全確実に立てて善処していく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	・令和3年度に実施予定。	

	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修参加の機会の確保を行っている。 ・保護者向けの学習会についても音源を録音したり資料を見たりと指導の参考にしている。 	・現勤務体制での外部研修参加はなかなか余裕がないところではあるが、今年はさらにコロナ禍の影響で中止も相次いでいる。施設内でのOJTや関係機関冊子を有効活用しつつ内部研修の機会も活かしていく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成にあたって保護者の要望を聴き、十分な時間をかけ丁寧なアセスメントを行うよう心掛けている。 ・職員の経験年数に応じて発達検査研修に積極的に行かせている。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度(入園時、その後は毎年度末)発達検査を行っている。 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	0		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成の際に指導方法を考えて、それを基にしながら支援をしている。 	・ひとりひとりをよく観察して、日々の丁寧なアセスメントを心掛けていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性に合わせて新しいものを取り入れたり、また、あえて固定化することもある。 ・見通しが持てるよう一定の流れの中、様々な課題を取り入れている。 ・基本的な構造化は必要であり、その中で成長に合わせた目標を立て指導している。 	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の個別指導(原則月2回)を活用し、集団活動でのフォローを行っている。 	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝事前朝礼を実施。 ・毎朝打合せを行い都度役割の再確認をしている。 ・その時々、必要に応じて意見交換や打ち合わせがしやすい職場環境になっている。 	

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、職員間で相談しながら日々の支援を見直し、次の日の支援に活かしている。 ・子どもたちの様子については、日々の支援記録作成と合わせ、その日の内に担任、副担任間で振り返り共有をはかっている。 	・家族支援や地域連携に関することは、相談支援専門員や管理職にも報告し共有化を図っていく。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・良好。 ・指導後は必ず記録を取り、その日の振り返りをする事で、子どもたちの成長や発達課題を知ることができている。 	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に時間をかけてモニタリングを実施している。 ・モニタリング内容を保護者と共有し、見直しを行っている(前・後期とも) 	・計画の見直しについては職員間での確認が必要なので、今後も指導後の情報共有を丁寧に進めていく。
関係機関や保護者との連携、関係機	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に対応を行っている。相談支援専門員が参画している。 	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて連携した支援を行っている。常に連携体制を取っている。 ・市内在住の新1年生及び在園時の状況を毎年、市の保健師に報告している。 	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に様々な病院・施設・通所機関があり、本園は知的障害を主対象としているが必要時関係機関と連携した支援をしている。 ・てんかん発作がある子には発作時のチャートを保護者と主治医と連携して作成している。 	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかん発作のある児童に対する対応マニュアルを適宜更新している。 ・主治医と連携を図りながら緊急時の対応について共通理解できるようにしている。 	・一昨年度より、指導時間及び開園時間中(放課後園庭開放時等)に保護者や職員が同行する場合の「脱臼・捻挫等疑いがある時の近隣整形外科リスト」を作成しており、適宜更新を進める。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の了解が得られれば、引継ぎ事項などの情報共有を行っている。 	

関や保護者との連携	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎは資料、電話、対面などの方法で行っている。 ・就学時は保護者の同意のもとで、就学先と引継ぎの機会を設けている。 ・昨年度は特別支援学校に就学した児童に加え、普通級に就学した児童の担任職員や、学童クラブの職員とも電話で引継ぎを行った。 	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研究を受けている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所、センターへの見学や研修は、支援の様々な方法技術を学べる良い機会であり、自己研鑽できるので奨励されている。 	・コロナ禍での学事や行事運営については、本部の大学および他機関と連携し、研究成果や助言を受けていく。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	7	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放期間や行事等での未就学兄弟姉妹の参加により自然と交流する機会となっている。 	・個人情報の観点や相手側とのプログラムのすり合わせを考えると、どうしてもメリットばかりに目を向けられなく、また保護者それぞれの障害受容にも差があることから、一律にプログラムを立てることは慎重になり致し方ないとしている。
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回参加している。 ・卒園児が就学後に通う放デイの職員とも積極的に意見交換を行っている。(コロナ禍の影響で前期の部会は開かれなかった) 	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の際に直接会話をしたり連絡帳を活用している。 ・どの職員も日頃から送り迎えの際や連絡帳(伝えきれないことは面談)を通して保護者とコミュニケーションを密にとるよう努力している。 	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 ・ペアトレの内容を担当も把握し、日々の指導に活かすようにしている。 ・今年度からは、ペアレントトレーニングを行う職員が変更になり、支援を行える職員が広がった。 ・学園の先生、学園を卒園した母が指導者となり、保護者が安心感を持って臨めるように工夫している。 	
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時契約の際、丁寧かつ分かりやすく説明し、納得の上で押印いただいている。 ・昨年10月から利用料無償化がスタートしたが事前に説明会を開き無事契約更新している。 	

保護者への説明責任等

③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	0	・必ず支援計画を渡し説明し、納得の上、サイン、捺印をもらっている。	
③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	・どの職員も保護者一人ひとりと丁寧に関わり、寄り添う姿が見られる。 ・2年保育、3年保育によって保護者の障害受容や学習・支援のスピードが異なるので、必要に応じて担当者から積極的に声をかけ助言している。	・保護者の抱える多様な相談事については、園長室にて園長面談の体制を今後も整えていく。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	0	・負担にならない範囲での保護者同士(学年毎)のつながりを支援。 ・お餅つき会やいたる祭りなど同窓会行事を取り入れて異年齢の保護者同士が交流できる場を設けている。	・コロナ禍での感染予防対策を学園としても保護者と連携して確実にやっていく。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	・必要を感じた時には、職員から保護者へ面談を入れてもらうよう依頼することもある。 ・ここ数年、指導室長も相談体制に加わって体制の強化を図っている。	
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	・実施している。がくえんだより、ほけんだより、毎月の献立表等の情報発信は継続している。	・コロナ禍の影響で、前期同窓会会報については取材が難しく発行ができなかったが、後期については取材方法を工夫し発行していきたい。
③⑧	個人情報の取扱に十分注意している	11	0	・遵守している。ファイルは必ず鍵のかかる場所へ保管している。	・学習会等で他のお子さんのケースを話題にする際には、個人が特定できないよう細心の注意を払い行っている。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	・配慮方法を検討し実施している。 ・マカトンサインや視覚的な方法(絵カード等)を使い子ども達一人ひとりにあったコミュニケーション方法を考えている。 ・自分の気持ちを伝えられないお子さんが多いので職員は常に子どもたちの立場に立って状況を理解するように努めている。 ・マカトンサインを使用し、保護者向けに講習会を行っている。	
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っている	5	6	・園の行事には第三者委を必ず招待している。 ・各行事には、学生ボランティア、地域の関係施設、実習生の受入れ等を招いている。	・コロナ禍の影響で今年度は多くの行事が中止や規模縮小にならざるを得なく、今後のありようを十分検討していく。

非常時等の対応	④①	緊急事対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの作成と更新を行っている。 ・今年度は特にコロナ感染防止対策に力を入れ、マスクの確保、飛沫防止シールドの設置、アルコール手指消毒等、看護師をリーダーとして実践している。 	・コロナ禍においては、地域感染状況を速やかに情報収集し共有を図り、法人本部とも連携して敏感にかつ確実な予防対応を行っている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を行うとともに消防署からも毎年指導を受けている。 ・水害を想定した垂直避難の訓練も行っている。 ・毎月、地震、火災、浸水のいずれかの避難訓練を行い、昨年は消防署のAED講習も受けた。 ・マスクの備蓄、非常食のチェック、入れ替えを行った。 	・いつも子どもたちを避難させることに重点を置いているが、災害によっては、例えば窓の開閉など避難時にどう対応すれば良いか等の想定を、防火管理者を中心に確認し職員間で共有していく。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝朝礼時に確認している。 ・てんかん発作のあるお子さんには発作マニュアルを作成し、日々の対応方法や緊急事態の対応を周知している。マニュアルは必要に応じて更新(加筆、修正)している。 	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー食をとっている園児には半年毎にアレルギー検査結果を提出いただいている。 ・保護者の要望も踏まえ、アレルギー食の提供をしている。担任、栄養士、看護師が保護者と連携を図りながら食事支援を行っている。現対応児一名については、医師の指導のもと除去解除に向けた取り組みを行っている。 	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書を作成している。 	・指導員は、日々の指導の中でのヒヤリハットについては、負担なく事実を記載できるよう指導看護日誌に記入している。この件については、年度当初に必ず説明している。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0			
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現在必要な状況の子どもはいない。 ・契約時に保護者には原則行わないことを方針や理念でうたっている事を十分に説明し、同意された上押印を得ている。 		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。